

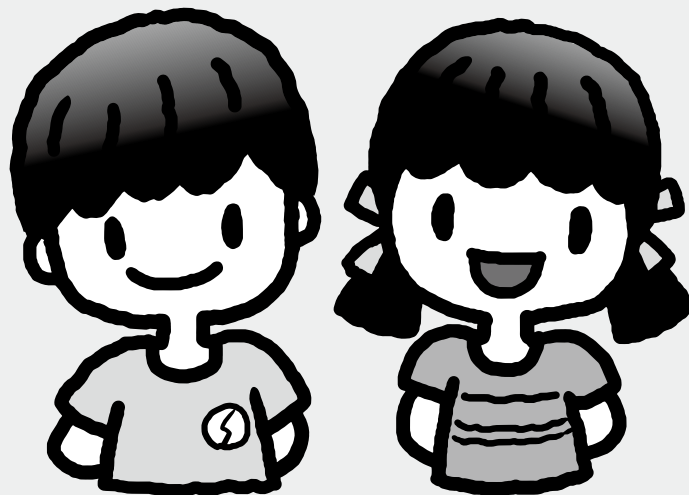
# 2010

## 合同教育研究 全道集会

平和を守り真実をつらぬく民主教育の確立をめざして

2010. **11/13**[土] → **11/14**[日]

大切にしたいね、  
子どもと教育



子ども・青年の未来に希望をはぐくむために  
憲法・子どもの権利条約の息づく学校と社会を

■主催 2010合同教育研究全道集会実行委員会 ■連絡先 事務局(北海道高等学校教職員センター内)

〒060-0042 札幌市中央区大通西12丁目 ☎(011)231-0816 FAX(011)241-8510

[www.goken-hokkaido.jp](http://www.goken-hokkaido.jp)

# ごあんない

～共に学び、考えましょう！～

合同教育研究全道集会(全道合研)は「平和を守り真実をつらぬく民主教育の確立をめざして」、1976年の第1回開催以来、広く道内の教育関係者、父母、道民が集い、30年をこえる歴史を刻んできました。

今年の集会は、新政権が国民の期待に反して混迷と迷走をつづけるなか、貧困と格差が子どもたちの就学を脅かし、深刻な就職難がいっそうひろがる事態のなかで開催されます。

新政権は、広がる貧困と格差拡大に対して教育の機会均等をもとめる世論に押されて、公立高校授業料無償化や子ども手当の給付を実現させました。また、文科省は2011年度予算の概算要求に小中学校の少人数学級や高校の給付型奨学金の導入を打ち出しました。しかし、廃止方向に進むはずだった教員免許更新制は宙ぶらりんの状態のまま、縮小方向に向かうはずだった全国学力テストは実施教科数増の方向性が打ち出されるなど、子どもたちや教職員を「競争」へと駆り立て「管理」によって締め上げる姿勢は一切変えていません。

子育て・教育に対する国民の切実な要求を実現させるために私たちはこれまでも、世論や国民的合意をつくりだす運動にとりくんできました。政権交代を要求実現のチャンスととらえ、教職員、父母、道民、子ども・青年が、教育をめぐる「対話」と「共同」のとりにくみを積極的に広げていくことが重要です。子ども・青年の未来に希望をはぐくむために、全道合研に集い、語り合ひましょう！憲法と子どもの権利条約が息づく学校と社会を築き上げるために、各学校・地域の実践と運動を持ち寄り、共に学び、考えましょう。

～ 2010全道合研の基本的課題～

◎教育基本法が改悪された情勢のも

と、日本国憲法と子どもの権利条約に則り、47教育基本法の精神を教育実践に生かすとりくみが求められています。平和と非暴力の文化を地域から築いていきましょう。ILO・ユネスコ教員の地位に関する勧告・CEART 勧告を守り生かすことこそが、世界と日本の未来、子ども・青年の未来をきりひらきます。

- ◎子ども・青年をめぐる問題を多面的に明らかにし、その姿の奥にある子ども・青年の願いを読み解きましょう。子どもの権利条約の精神に基づき、社会、地域、学校、家庭の責任と役割を見つめ直すことを通じて、成長・発達への確信を共有しましょう。自己責任論の押しつけに抗して、新自由主義的構造改革がもたらす貧困と格差拡大を打開する道を探りましょう。
- ◎新自由主義・新国家主義的「教育改革」のもたらした矛盾とゆきづまりを明らかにし、子どもと教育を息苦しいものに変質させている「競争」と「管理」を乗り越えましょう。子ども・青年の願い、父母、道民の教育要求に基づき、基礎学力と人間的な成長を保障するための授業づくり・教育課程づくり・学校づくりをすすめましょう。児童・生徒、教職員、保護者、地域住民の参加と共同による学校づくりを前進させましょう。
- ◎管理と統制が強化され、多忙化がすすむ学校現場の実態に抗し、改めて自主的・創造的な教育研究活動の重要性を確認し合ひましょう。教職員同士が子どもの実態と学校・職場の課題を率直に語り合ひ、日常的に学び合う関係を回復しましょう。全道合研に蓄積された教育実践・教育研究に学び、それぞれの地域で保護者、地域との共同による教育研究活動の新たな発展をめざしましょう。

# 集会日程

	11 / 13	11 / 14
9 : 00		
9 : 30		受付
10 : 00	受付	分科会
	テーマ討論 特別講演	
12 : 00		昼食
13 : 00	共同研究者・ 司会会議 昼食・昼休み 企画	
13 : 30		分科会
15 : 00	分科会	
16 : 30		
16 : 45		高校演劇等 文化行事
17 : 45	教育の夕べ	
18 : 00		記念講演 挨拶
19 : 30		



11月13日(土)

■かでの2.7 札幌市中央区北2条西7丁目

■かでの2.7(ホール)

テーマ討論 10:00 ~ 12:00

高校演劇

①子どもの実態から出発する  
授業・教育課程・学校づくり

コーディネーター  
富田 充保(札幌学院大学)

②生きづらさに寄りそう  
～子ども・若者・大人がつながりあえる社会を～

コーディネーター  
小室 正範(道労連事務局次長)

③他者からの“まなざし”をうけとめて  
～アイヌ民族・在日コリアン・そして歴史へ～

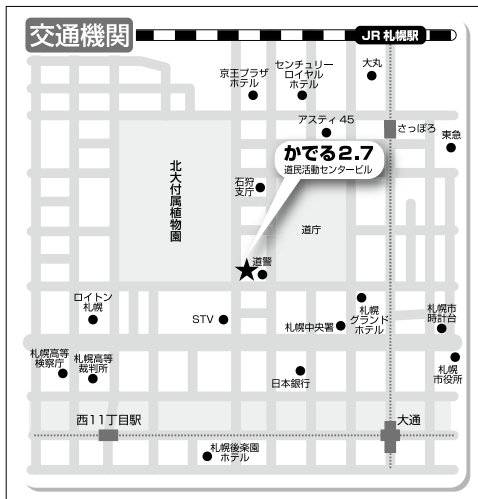
コーディネーター  
清水 裕二(少数民族懇談会)

開会あいさつ

記念講演

『学び合い・育ち合い  
現代の子育てと親・おとな』  
(仮題)

講師:田中 孝彦さん  
(武庫川女子大学)



分 科 会

■かでの2.7 札幌市中央区北2条西7丁目

第1分科会～第24分科会

11月13日(土)

13:30 ~ 16:30

11月14日(日)

9:30 ~ 15:00

参加される方へ

- 「教育のタベ」は¥500円の参加費が必要です。
- 分科会は2日日程ですので議論を深めるためにも2日間の参加を原則としてください。
- レポートは加盟団体を通じ、氏名・所属・レポート名を10月29日(金)までに合研事務局へ申し込んでください。なお、個人での参加も同様です。(電話可)
- レポートの印刷はこのリーフの分科会案内に掲載してある分科会ごとの数で各自が印刷・用意してください。そのうちの10部は11月4日(木)までに事務局へ送ってください。残りのレポートは各自が当日の分科会へ持参ください。
- 会場には保育所を用意しています。
- 障害を抱えている方の参加については、会場準備の関係がありますので、あらかじめ事前に事務局へ相談ください。

レポートの作り方

1. 教職員の日頃の実践や子ども・地域との共同、父母から見た子ども・教育の様子などの簡単なものでも構いません。積極的にレポートを作って参加してください。
2. 形式は問いませんが、以下の点をお願いします。
  - ・表紙にはレポートテーマ、分科会NO.・所属・氏名を明記すること。
  - ・ページが多い場合は目次、ページ番号を記入すること。
3. プライバシーの権利を侵害するおそれがある場合は、実名の記載は避けてください。実名を出さない場合でも報告(レポート)の脈絡から個人が特定されないように十分配慮してください。
4. レポートは原則的に閲覧の形で報道関係者に公開します。プライバシー保護のため「非公開」を希望する場合は、表紙に明記してください。
5. レポートの発表は分科会の運営上一定の時間に制限されることもありますのでご了承ください。
6. 提出レポートは「北海道の教育2011」に収録されることがありますのでご了承ください。
7. 視聴覚機材が必要な方はあらかじめ事務局へ申し出てください。なお、ノートパソコンはレポート発表者各自が用意持参してください。

## 1 国語教育

レポート数  
(50)

国語教育は、子ども達に日本語の知識とそれを使いこなす能力をきちんと身につけさせ、それらの力をもとにして言葉の背景にある生活や現実の意味を深く学ばせる教育です。

この国語教育を充実させるには、まず、子どもの発達をうながすような質の高い教材の発掘と研究、さらに、言葉と現実との結びつきを大切にしながら子どもと教師がともに学ぶ「楽しくわかる授業」をどうつくりだすのかなどの研究が中心的課題になります。

学習指導要領の改訂によって、愛国心・道徳教育の強調が行われ、国語教育が変えられようとしています。今こそ、平和教材のあり方と指導法についても明らかにするとともに、子どもに真の生きる力を育てる「授業づくり」の原則を明らかにしてゆきましょう。

### 共同研究者

荒木美智雄（長沼高校）  
茶森 茂樹（檜山教組）  
馬場 雅史（札幌南陵高校）



## 2 外国語教育

レポート数  
(40)

自民党政権時代に作られた学習指導要領はめまぐるしく変化し、更新される度に外国語教育の目的が「実用性」一辺倒になってきています。その誤った新指導要領の本格実施まで一年半となりました。また、教職員評価や査定昇給で脅しながら、教職員の能力を問おうとしています。今あらためて、教育現場で生徒と共に学ぶ者の視点でこれらの本質をとらえ直す必要がないでしょうか。今回の改訂では小学校でも「英語活動」が導入され、小中高大の連携がよりいっそう求められます。本分科会はそういった多様な教育機関に携わる私たちが一堂に会することができる場です。互いの悩みを共有し、連帯の輪を広げ、文科省の脅しに負けない教育理念と信念を共有しませんか。そして、明日から現場で実践する英気を養いましょう。

### 共同研究者

小山内 洸（元教育大釧路校）  
鈴木 史朗（元教育大釧路校）  
杉山 譲司（大通高校）

## 3 社会科教育

レポート数  
(50)

現代は歴史の途上であり、また地球上のすべての人の営みの結節点にあります。社会科教育はそれらすべてを教育内容として、子どもたちがこの社会をどう見るのか、未来に向かってどう生きるかを考えるためにあります。

今、子ども達は決して安心できる豊かな毎日を送ってはいません。希望や夢を描いても現実との乖離に悩むことも多いでしょう。だからこそ、そこに社会科教育がある。多くの学校ではテスト知識に終始する社会科も多いのが実態です。しかしこの分科会では、厳しい現場でも、子どもを真ん中に、共同で明日を切り拓く社会が実感できるような授業を、と奮闘している実践が毎年報告されます。一人の力は微力で悩みも多いのが教師。大いに授業を語り合い、明日の実践が楽しみになる元気がわく分科会にしましょう。

### 共同研究者

伊藤 雅康（札幌学院大学）  
前田 倫音（教育大札幌校）  
平井 敦子（札幌市真駒内中学校）  
山川 功（阿寒小学校）  
山本 政俊（有朋高校）

## 4 数学教育

レポート数  
(50)

数学の魅力がなかなか伝わらない現状を憂えているあなた。子どもの苦しんでいる姿に心を痛めているあなた。日々の努力にもかかわらず進む方向が見えなくなってしまったあなた。

ともに集まって希望の光を見出そうではありませんか。

この分科会では、リアルな現状分析もあり、教えるべき良質な数学への探求があり、子どもと共につくり上げる楽しい数学の語りあいもあります。

何よりも、自ら数学教育を創造しようという明るい雰囲気があります。

教員（幼稚園～大学）、父母、市民の方の参加を心から歓迎します。

### 共同研究者

須田 勝彦（元北海道大学）  
真鍋 和弘（札幌篠路高校）  
吉田 陽一（札幌西岡小学校）  
高橋 哲男（海星学院高校）  
成田 収（静内高校）

## 5 理科教育

レポート数  
(40)

理科分科会は、例年、実験教具の開発、ユニークな教材の紹介、学力低下、日頃の実践上の悩みなど、若い教師たちが学べる分科会づくりをめざして、白熱した討論・質疑で盛り上がっています。今年は、これまでの成果を引き継ぎながら、

- (1) 子どもが楽しみながら自然科学の基礎を着実に学ぶことができる授業をどのようにつくるか。
- (2) 子どもと教師の意欲を引き出す、わくわく実験・ものづくり教材をどのように開発するか。
- (3) 「地域の自然」をどのように教材化するか。
- (4) 科学リテラシーを身につけることができる教育課程づくり。

という4つを柱にすえて、討議を深めていきたいと考えています。特に学習指導要領の改訂にとまない、私たちの教育課程づくりという視点からも討議をします。

また、楽しいものづくりや、誰にでもできる実験の紹介も企画しています。どんなレポートでも気楽にお持ち込みください。またレポートが無くても、明日からの授業に活かせるネタを仕入れにぜひいらしてください。

### 共同研究者

梅津 徹郎（北海道大学大学院）  
大野 栄三（北海道大学大学院）  
境 智洋（教育大釧路校）



## 6 美術教育

レポート数  
(35)

現在、授業時数の減少により造形体験や鑑賞の機会が減少してしまいました。これにより、図工や美術により養われるべき造形能力だけではなく、生きるために必要な創造的な能力までもが子どもたちに根つき難くなっています。「学力向上」は大きな課題ですが人格の完成という観点において、子どもたちの感性を拡張する美術教育は重要な役割を担っているはず。造形活動を通じて育まれる学力は決して軽視できるものではないと

私たちは考え、現在まで研究協議を重ねてきました。毎年、この分科会に持ち寄られる子どもたちの作品はまさに生命の輝きを放っていると言っても過言ではありません。それらを中心とする実践交流を行うことで子どもたちに還元できる事も少なくありません。専門、専門外を問わず多くの参加をお待ちしています。

#### 共同研究者

福田 好孝 (岩内高校)  
本庄 隆志 (倶知安高校)  
上野 秀実 (釧路江南高校)  
十河 幸喜 (江差高校)

## 7 書教育

レポート数  
(25)

映画やテレビで高校生の書道部の活動が取り上げられ、「書道ガールズ」「書道パフォーマンス」という新語も生まれています。そこでは、古い形の書道のイメージを新たにしてくれています。

しかし、実際の教室ではテレビや映画のように行かないし、小中学校の書写ではなおさらです。それぞれがいろいろな課題を抱えています。

今年は、小中学校の先生方も参加しやすいように、書写の実践レポートも準備しました。芸術科の高校とは違う書写の中にも、工夫次第で楽しさを加えられる実践です。

書教育分科会には、毎年たくさんの子どもの作品が並べられます。作品からは子どもたちの顔が見えてきます。私たちは、それらの作品を通して、子どもたちの現在を知り、未来を模索しようとしています。会場一面に並べられた、子どもたちの表情を見に来ませんか？

#### 共同研究者

野坂 武秀 (音更高校)  
伊丸岡圭一 (東川高校)

## 8 音楽教育

レポート数  
(25)

音楽は、人が豊かに生きていくために欠かすことができない文化です。現在小学校から高校までの学校教育において音楽の授業時間数が減らされて久しいのですが、音楽を通じて子どもの生きいきとした姿を様々な実践交流の中で明らかにすることによって、音楽教育の重要性をアピールしていくことが大切でないでしょうか。

子どもの成長発達の中で音楽が大事な役割を果たし、音楽を通して子どもが成長していくことを様々な実践発表の中からいねいに読み取る。そして、分科会参

加者の財産にしていくことをめざします。ささやかでも、ぜひ多くの実践を持ち寄り、交流し学び合い、励まし合う分科会にしましょう。

#### 共同研究者

佐藤 重夫 (北海道音楽の会)  
野村 公 (元教育大岩見沢校)

## 9 技術・職業教育

レポート数  
(40)

現在の子どもたちをとりまく環境(食やくらしの安全・労働問題・企業モラルの低下など)を見るときに、技術・職業教育の必要性が強く求められています。

中学校の技術教育においては、不安定雇用などの雇用形態の変化による技術継承問題や産業構造の空洞化問題など、ものづくりの重要性が社会問題とされています。

高校職業学科では、学力問題や特色づくり、統廃合問題にさらされるなど、職業教育のあり方が問われています。

技術・職業教育と共に、教育行政・教育現場からは軽視される傾向がある一方で、最近ではキャリア教育の必要性が求められています。

多くの実践を持ち寄り、技術・職業教育のあるべき姿についての討論を改訂学習指導要領の検討も含めて深めていきましょう。

#### 共同研究者

町井 輝久 (札幌国際大学)  
上原 慎一 (北海道大学)  
倉部 静雄 (函館商業高校)



## 10 家庭科教育

レポート数  
(40)

貧困と格差が進行するなかで、新学習指導要領に対応した教科書の作成が進められています。小学校につづき今年度は中学校教科書の検定がおこなわれますが、各教科と「道徳」との関連づけ、「生きる力」が自己責任との関係でどのように教科書に反映されるか注視しなければなりません。

日々の暮らしと向き合う家庭科が、子どもの抱える生活の困難にどのように迫

り、何を提起していくのか、重く大切なテーマと私たち家庭科教師は対峙しています。

これまで家庭科では、子どもを現在と将来にわたる“生活の主人公”に育てる、すなわち「生活課題に主体的にとりくむ認識と技と意欲を育てる」ことを大切にしてきました。いま、“生活の主人公”を育てる家庭科の授業をどのように作り上げていくか、参加者のレポートをもとに、またこれまでの実践の蓄積を掘りおこしながら、大いに意見交換したいと思います。皆で明日の家庭科をつくり上げていきましょう。

#### 共同研究者

青木香保里 (愛知教育大学)  
増淵 哲子 (教育大札幌校)  
川邊 淳子 (教育大旭川校)  
伊槻久美子 (札幌白陵高校)

## 11 保健・体育教育

レポート数  
(45)

保健室へ入室する子どもの心身の課題が多様化し深刻さを増しています。貧困課題が子どもたちの健康問題に影響を与え、また、ケータイやインターネットによるトラブルや事件等の低年齢化。さらに、指導上特別な配慮を要する子どもも増加傾向にあり、保健室から見える子どもたちのようすを子どもの抱えている困難や発達の苦悩として受け止め、どう支え合っていくか等の取り組みを持ち寄り交流しましょう。

また、体育における「めあて学習」や新指導要領の課題と問題点を明らかにして、すべての子どもたちが身につけるべき共通な力(体育の学力)をさぐっていきましょう。小学校での実践はもとより、中高生の実態と共に授業・体育的行事・部活動を交流して、大いに学び合い、励まし合う分科会にしましょう！

#### 共同研究者

大瀬 隆 (札幌学院大学)  
中島 義夫 (中標津町養老牛小学校)  
種市 倫江 (砂山豊沼小学校)  
宮腰 里佳 (栗山高校)

## 12 総合学習・生活科

レポート数  
(30)

2011年の学習指導要領の完全実施を控え、実質的には前倒しとしての実践が求められている中で、「総合的な学習の時間」の位置づけや内容が新たな局面をむかえています。

小学校の外国語教育や教科時数の増加等、「総合的な学習の時間」が削減され

る中で、育てるべき力や教科や諸領域と結合した実践のあり方を明確にしていくことが求められています。

分科会で議論を続けてきた学びたいことと学ばせたいことの統一への取り組み等、学力の具体像や学びの内容の質の追求は、今こそ意味を持つと考えます。さまざまな矛盾が現実の姿をとって私たちの日常に散見される時代に、教師は教育課程づくりの指標として、何こそ学ぶべきなのかを一緒に議論したいと思います。

共同研究者

荒井 眞一（北海道大学大学院）

蕨保 収（元小学校教諭）

## 13 教育課程と子どもの学力評価

レポート数  
(35)

私たちがこれまで議論を積み重ねてきた「教育課程づくり」のあり方は、子どもの実態に即して各地域・学校で自主的に組み立てられるというものでした。また、各学校・教職員の創意工夫が生かされることで「教育課程」に一層の厚みが増すものであることも、この分科会で実践的に証明されてきました。

「人格の完成」に資する確かな学力を子ども達に身につけてほしいという、保護者・地域の願いに応えるため、教職員が子どもたちを中心に据え生き生きと活動させながらの実践がこれまで報告されてきました。

それぞれの実践の切り口は違いますが、そこに通底している、「子どもを丸ごととらえる」、「子どもの発達の可能性に信頼を寄せる」ということに参加者が大きく励まされ、次の実践の手がかりをつかんでいます。

改訂学習指導要領の本格実施を目前にした今であるからこそ、子ども達の「学びたい」という要求に応える「教育課程」を、子ども・保護者・地域とともに自主的・創造的につくりあげていくことが求められています。

各校独自の教育課程づくりのヒントを学びに来てください。

共同研究者

三上 勝夫（北海道文科大学）

今泉 博（教育大釧路校）



## 14 学校と家庭の生活指導

レポート数  
(50)

発達の不十分な子。学校に過剰適応する子など、極端な様相がみられる小学校低学年。現実生活に反映する『貧困問題』を意識し始める小学校高学年。高校進学が狭まり自分を見失う中学生。地域経済の崩壊で生き方に行き詰まる高校生。様々な保護者の要求が持ち込まれる学校。子育てで孤立する保護者。『格差社会』が生んだ『貧困』は子どもの発達を妨げ、『自己責任』ですまそうとしています。

子ども達の『生活』は憲法で守られているものとはかけ離れている情勢がある一方、ILO 勧告に見られるように日本の教育が世界にひらかれ、前進をみせる情勢もあります。

今こそ、子ども・青少年をまんにして、大人がつながりましょう。

子どもたちを応援し、共に『豊かな人生』をつくり出すための糸口を語り合しましょう。参加をおまちしています。

共同研究者

竹田 正直（北海学園大学）

橋本 尚典（あいの里東中）

黒谷 和志（教育大旭川校）

## 15 教育条件確立の運動

レポート数  
(45)

貧困と格差がひろがり、就学援助費や義務教育費国庫負担金の削減によって、子どもと家庭に犠牲が一層及んでいます。

「構造改革」「財政再建」の名のもとに進める新自由主義的改革と教育政策は、憲法が掲げる「教育の機会均等」の原則を踏みにじり、教育の競争激化と選別切り捨てを強めています。

また、「行政改革」の名の下に高橋道政は、学校統廃合を強引に押し進めつつ、給食・校務補業務の民間委託化、校舎の警備無人化、更に今年度からは学校事務職員を一部吸い上げて学校運営支援室の設置を強行しました。

昨年の分科会では、給食費の未納問題の現状と課題について、就学援助費の自治体間格差からみた制度の不十分点について、へき地級地指定をめぐる取り組みについて、道教育財政と道立高校予算の現状についてという各レポートが報告されています。

「ゆきとどいた教育」を求める運動の意義を踏まえつつ、教育条件について更に交流を深めたいと思います。

共同研究者

栗野 正紀（教育大札幌校）

佐々木仁志（北海高校）

松野 修江（札幌東高校）

西山 正一（白糠町白糠小学校）

## 16 子ども、父母参加の学校づくり

レポート数  
(40)

子どもたちは、勉強がわかり、友達と楽しく過ごすことができる学校を求めています。その願いは、保護者はもちろんのこと、教職員、教育関係者、そして、地域・住民の教育への願いでもあります。その願いに応えるためにも、いまの学校がかかえる課題を明らかにして、「子どもたちが主人公、保護者・教職員が共同する学校づくり」を求めて交流し学びあうことが大切です。

この分科会は、これまで北海道各地の学校づくりの実践・財産を蓄積してきました。同時に、子ども、保護者、教職員、現業職員、教育関係者など、様々な角度から「子どもたちをどう育て、学校をどうつくるか」の話し合いをすすめてきました。上からの教育改革の現場でのあらわれ方や、子どもたちの実態、教職員や保護者の共同について大いに交流し学びあひましよう。

共同研究者

上ヶ島哲雄（旭川市愛宕東小）

廣田 健（教育大釧路校）

## 17 地域における子育て・学習運動

レポート数  
(35)

教育基本法が改悪されたことによって、教育現場にはさまざまな苦悩が広がっていると同時に、家庭教育に関する条項が加えられことによって、以前にもまして子育ての責任が父母に押しつけられるようになっていきます。

同時にこのような状態は、生活をめぐる格差の拡大をとまなび一層深刻になっています。バラバラにされた親たちをつなぐ共同の活動の場の果たす役割がますます重要になっています。

さらに「教育再生」の名のもとに、学校と地域の連携を行政主導で強められ、教育の国家統制に結びつける動きも目立ってきています。

また、教室や地域における教師の自由な活動も次第に制約されつつあります。

本分科会は、子ども・親・教師・住民による地域における子育ての共同を中心として子育てネットワークの可能性について語り合います。

共同研究者

鈴木 敏正（北海道大学）

河野 和枝（北星学園大学）

山田 定市（元北海道大学）

## 18 地域と学校の文化・スポーツ活動

レポート数  
(35)

興味のあるスポーツや文化に参加する時の幸せはこの上ないものです。また鑑賞にあってはしばしば大きな感動を受けることが多くあります。

一方で「金と暇がない・・・」という感覚もついて回ります。学校現場でも、予算の「見直し」・授業時間確保の名目で、学校祭や芸術鑑賞会の規模縮小が検討される事例もあります。

他方、図書館ネットワーク・読み聞かせボランティア・キャンプ・合唱など市場原理や競争主義と一線を画する活動も健在です。

このような状況の下で、私達は時に実践者、時に鑑賞者として文化を支えています。自分を含めた、地域や学校に暮らす「人間」のために、何ができるのか、また、何が必要かを話してみませんか。

多数の参加をお待ちしております。

共同研究者

桑原 清 (教育大札幌校)

加藤 多一 (童話作家)

白木沢旭児 (北海道大学)

りくみ、職場のあり方、政策のあり方などについて検討していきます。国立大学法人運営費交付金、私立大学等経常費補助の一律10%削減は、大学に計り知れないダメージを与えます。賃金の切り下げ、雇用の非正規化、業務の外注、長時間労働、ストレスの増大など、「改革」の圧力に抗して、職場を人間的なものにしていくためにとりくまなければならない課題について、経験交流をすすめます。

共同研究者

姉崎 洋一 (北海道大学大学院)

光本 滋 (北海道大学大学院)



## 21 環境・公害と教育

レポート数  
(35)

現在グローバルな環境についての問題としては、地球温暖化の問題があります。民主党中心の現政権は温暖化ガスの1990年比25%削減を国際公約としましたが、主要排出国の参加を前提としています。また、京都議定書後の国際的な対策の枠組みもまだ確定していません。

北海道において、長年の運動によりスーパー林道が廃止となりました。政権が変わり、一部のダムは建設がストップしていますが、依然として各地で公共事業に伴う自然破壊が大きな問題となっています。また、外来生物や開発に伴う生物多様性衰退の問題も深刻化しています。最近では、大規模風力発電施設建設に伴う問題も起こりつつあります。

私たちの生存の基盤である環境を保全し、生物多様性を保持するため自然を保護することは、持続可能な社会の実現に不可欠です。このため、環境教育・自然保護教育は、学校のみならずあらゆる年齢層に対して、様々な機会に行われる必要があります。

環境保全・自然保護に関わる多様な実践と経験・知恵を持ち寄り、環境教育と自然保護教育を豊かにする議論を深めましょう。

共同研究者

江見清次郎 (北海道大学)

寺島 一男 (北海道自然保護連合代表)



## 22 平和・憲法・人権・民族と教育

レポート数  
(50)

◎平和・憲法

戦後65年を迎え、年ごとに風化していく「戦争体験」。また、短命政権の連続と沖縄県民と国民を裏切った「普天間基地移設問題」。

また今年も、「韓国併合百年」、「安保改訂50年」の年にも当たります。二度と繰り返してはいけない「戦争」の体験をどう伝えていくのか、安心して暮らせる日本をどうつくっていくのか、皆さんの実践を交流し、「平和」について「憲法」について語りませんか。

## 20 障害児・障害者の教育と福祉

レポート数  
(80)

今年度、特別支援学校では、知的障害の特別支援学校に看護師が配置されたり、道央圏の知的障害の特別支援学校では分教室の設置が決まったりするなど、今までの運動に対して一定の成果が出つつあります。

しかし、学校が設置されている地域に偏りがあり(道央圏では北西部に集中)、小・中・高校で学ぶ「特別な配慮」を必要とされる児童生徒への対応は未だ十分ではありません。

新学習指導要領では、今まで以上に「見える成果」が求められ、子どもの内面に沿った、豊かな発達を保障とする教育実践が困難になりつつあります。

昨年成立した民主党政権では高校の授業料無償化などで一定の成果を上げつつも、「障害者自立支援法」についても先行きが不透明で予断を許さない状況です。

これらを踏まえつつ、従来私たちが行ってきた「発達保障」を大切にしながら豊かな教育実践を、語り合ひましょう。

共同研究者

岡山 英治 (札幌高等養護学校)

二通 諭 (札幌学院大学)

戸田 竜也 (教育大釧路校)

玉島 孝之 (夕張高等養護学校)

永島 宏人 (北ひろしま福祉会)

村田 修 (静内桜風園)

北村 典幸 (あかしあ労働福祉センター)

## ◎人権・民族

子ども、教師をとりまく状況、その実践報告を確かめ、明日の力にしていきたいませんか。

民族文化を通して先住民族文化を考へ、歴史を学びませんか。今年は韓国併合百年、サハリン北緯50度線分断と併わせ、民族と人権、平和を考えてみませんか。

アジア諸民族の歴史を学ぶ中で現在未解決の戦後補償問題について話し合い、アジア諸国民との連帯を考へ、新しい民族文化の創造を一緒に語り合いましょう。

### 共同研究者

- 奥野 恒久 (室蘭工業大学)
- 蓑口 一哲 (本別高校)
- 原島 則夫 (ほっかい新報)
- 小川 隆吉 (アイヌ協会)
- 清水 裕二 (少数民族懇談会)
- 田中 了 (ウィルタ協会)

# 23

## 子ども・青年の 発達と教育

レポート数  
(50)

新自由主義路線の下、貧困と格差拡大が進行し、大人でさえ生きづらい世の中を子ども・青年たちは時には屈折しながらも精一杯に生きています。

そんな子ども・青年の声に耳を傾けることなく、懲罰主義・徳目主義の教育政策が押し進められていることが子ども・青年をさらに追い詰め、事態をいっそう

深刻にしています。

そんな中、生活苦が進む中でも父母の皆さんは子育てに励み、教職員は多忙化と闘いながら教育活動に取り組んでいます。そして、地域で子ども・青年の発達援助に心を寄せる人々がいます。

その心の奥底にあるのは、子ども・青年の健やかな発達への強い願いであります。その願いに結びつけ、子ども・青年の発達のために、今何をすればいいのか、皆さんの思いと実践を持ち寄り、共に考えましょう。

### 共同研究者

- 内島 貞雄 (教育大学旭川校)
- 富田 充保 (札幌学院大学)
- 庄井 良信 (教育大札幌校)

# 24

## 不登校・登校拒 否・高校中退

レポート数  
(60)

学校に行けなくなったり、高校を中退することになったとき、生徒だけでなく、保護者や教員も子育てや教育活動に不十分な点があったのではないかと落ち込み苦悩し、その姿は不安の渦中にいる青年たちをさらに追い詰めてしまいます。

不登校・中退の問題は、戸惑い揺らぎながら成長する青年たちをどう受け止め支えるか、という大人や社会のあり方が試されている問題でもあります。生徒たち・青年たちを支えるには、まず大人たちが連携し、学び合いながら、成長を見守るネットワークを築いていくことが大

切です。

本分科会は、教員、保護者、当事者、支援機関など垣根を越えた参加者を得て、互いの実践から学び、課題を共有し、理解を深めてきました。今、不安を抱えている方、この問題に関心を持っている方、どなたの参加も大歓迎です。皆さんの思いを持ち寄り、ともに考えましょう。

### 共同研究者

- 内田 信也 (北海道合同法律事務所)
- 田中 敦 (北星学園大学附属高校教育相談室)
- ト部 喜雄 (高校教育研究所)
- 実平 奈美 (童夢学習センター)



## 2009合同教育研究全道集会の集録

# 2010

# 北海道の教育

A5判 2,000円  
合同教育研究全道集会実行委員会編

2010



合同教育研究全道集会実行委員会編

## 2010 合同教育研究会実行委員会加盟団体

全大教北海道、道私教組、道私大教連、道教組、道高教組、幌保育労働組合、福祉保育労働組北海道地本、建交労北海道本部、建交労札幌学童保育支部、勤医労道本部、札幌市学童保育連絡協議会、新婦人北海道本部、共同映画社、道労働者学習協議会、自由法曹団、憲法会議、平和委員会、リスト者平和の会、子どもと教育・文化道民の会、北海道子どもセンター、道民間教育団体連絡協議会、日本国民救援会北海道本部、安保破壊諸要求貫徹道実行委員会、北海道高等学校退職教職員の会、北海道新英語教育研究会、高校国語サークル、AALA連帯委員会、日中友好協会、札幌子どもを守る会、道農民連、障道協、札幌郷土を掘る会、北海道合唱団、出版労連札幌地協、劇団さっぼる、道労連、札幌地区労連、道医労連高校センター教育研究所、全障研北海道、ウィルタ協会、札幌保育連絡会、トボス、全北海道退職教職員の会